

シュンギクにおける農薬残留濃度の推定

島本文子

Estimation of Pesticide Residue Concentration for the Garland Chrysanthemum

Fumiko SHIMAMOTO

要 約

シュンギクにおける農薬登録を効率的に推進するための農薬残留濃度推定手法について検討した。推定に必要なパラメーターである薬液付着率は、28.4%、生育速度定数 λ (day^{-1})は、生育期間中の平均気温 T を用いて $\lambda = 0.1266T - 0.05299$ で表されることが明らかになった。これにより、散布 t 日後の推定残留濃度 C (mg/kg) は、果菜類と同様に、 $C = C_0 \cdot \exp(-\lambda t)$ で算出可能となった。ここで、 C_0 は散布後の経過日数 $t = 0$ のときの初期残留濃度 (mg/kg) であり、対象農薬の成分含有率と希釈倍率および薬液付着率の積により決定する。散布直後から散布14日後までの実測値は、本手法により求めた推定値の0.5~2倍とほぼ近似していたことから、農薬登録促進を目的とした残留推定には十分活用できる。

キーワード：シュンギク，推定残留濃度，初期残留濃度，薬液付着率，生育速度定数